破裂性脳動脈瘤に対する治療

Treatments of ruptured cerebral aneurysms

赤路 和則[1)]　吉田 啓佑[1)]　木幡 一磨[2)]　堀越 知[2)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中科

［目的］当院では、破裂性脳動脈瘤に対して、症例毎に開頭 clipping 術か塞栓術かを選択している。最近では塞栓術を選択することが多くなってきた。当院の治療成績より、破裂性脳動脈瘤に対する治療について比較検討した。

［方法］当院で 20019 年 1 月から 2021 年 12 月までに治療した破裂性脳動脈瘤 89 例 90 手術を対象とした。24 例（27%）で開頭 clipping 術、66 例（73%）で塞栓術を選択した。開頭術 clipping 術群では、平均年齢 64.9 歳、男性 5 例、女性 19 例、入院時 WFNS Grade Ⅰ-Ⅱが 62%であった。塞栓術群では、平均年齢 65.1 歳、男性 21 例、女性 45 例、入院時 WFNS Grade Ⅰ-Ⅱが 56%、stent 使用 7 例（11%）であった。

［成績］開頭術 clipping 術群では、90 日後 mRSO-1 が 9 例（38%）であった。塞栓術群では、90 日後 mRSO-1 が 37 例（56%）であった。開頭術 clipping 術群では、術後破裂例はなく、2 例（8%）で 1 年以内に再治療を行った。塞栓術群では、2 例（3%）で術後破裂を認め、7 例（11%）で 1 年以内に再治療を行った。

［結語］塞栓術群では、開頭 clipping 術群と比べ、術後破裂例があり再治療例が多いが、入院時 WFNS Grade Ⅰ-Ⅱの割合が少ないにもかかわらず、90 日後 mRSO-1 の割合が多く予後良好であった。